



Quad City の白頭鷲 (American Bald Eagle)

文/写真提供: 畑尻 郷 (近鉄インターナショナル シカゴ支店)
協力: 近鉄インターナショナル シカゴ支店



近鉄インターナショナル
1-800-654-4090
japandesk.CHI@kintetsu.com
www.kintetsu.com/jp/chi/

寒い、サムイ、差無為…とにかく最近寒い。ニュースでは「1999年以降の寒さです」とアナウンス。1999年ってこんなに寒かったかな? 8年前のことだからきっと寒さの感覚も年と共に変わったのかもしれない。

こんな寒い時に旅行を考えるとみなフロリダやらカリブやら原色キラキラのトロピカルな場所を考えがちだ。「それでは今日はその原色キラキラ・あったかアイランドについて」なんて訳にはいかないのだ。私は「寒い」と言いつつも、寒さが好きなのである。

寒暖計を見てみると、見事に華氏一桁だ。こういう状態が一週間も続くこの時期ならではの楽しみがあった。それは Mississippi 川の Eagle Watching である。この寒い時期に、はるかカナダ辺りから白頭鷲 (アメリカンボールドイーグル) が飛来してくる。白頭鷲といえばアメリカの国鳥であり、翼を広げると1メートル以上のものもある。また身近には郵便局のシンボルにもなっているあの見るからに勇ましい鳥である。もともと白頭鷲はエコバラミッドの頂点にいる猛禽類の為、絶対数が少ない上、環境変化などによりその個体数の減少が危ぶまれている鳥類で、一時は絶滅に瀕したこともあったそうだが、保護の取り組みにより現在、イリノイ州だけでも3000羽以上が確認されている。

その白頭鷲がこの極寒の時期にだけ Mississippi 川周辺にやってくる訳は、白頭鷲の主食が魚であることにある。冬になると魚は底近くにじっとしてしまふことが多く、それらを捕食する鳥にとっては魚

を捕食するのが難しくなる。ましてや凍結してしまえば、まったく空中からの捕食は不可能である。ところが Mississippi 川には数箇所のダムや閘門 (こうもん) といった堰 (せき) があり、その部分だけは水が絶えず流れる為凍ることがないのである。またその流れで水が循環され、プランクトンが水面まで上がることになる。そのプランクトンを追う小魚が水面に上がり、またその小魚をおって鳥の餌にちょうど良い大きさの魚も水面にやってくるということである。こういった水が凍らない場所が点在するのが Quad Cities と呼ばれる、アイオワ州の Davenport と Bettendorf、イリノイ州の Moline と Rock Island の4都市 (Quad) が重なる地域だ。

車でシカゴ周辺から約3時間弱で Quad Cities のイリノイ側の町、Moline に着く。人口約 44,000 人の町で、町の名の由来はフランス語の moulin (英語で mill の意) から来ている。この Moline に着くと町のいたるところで、John Deere の看板を見る。John Deere といえばアメリカの有名人な農機メーカーだ。中西部のとももろし畑の風景には欠かせない存在であるが、あの World Headquarters がこの Moline にある。John Deere のグッズ、模型を売っている John Deere Store (1300 River Dr.) や年代モノのトラクターなどがある Collectors Center (320 16th Street)、John Deere 歴史資料館ともいうべく John Deere Pavilion (1400 River Dr.) を覗いてみると農業国アメリカの一面を垣間見ることができる。

この Moline を西に走っていくと、大きな川にぶつかる。Mississippi 川だ。ミネソタ北西にある Lake Itasca を水源としてはるかメキシコ湾に注ぐ大河だ。長さは 3733km で全長としてはこれでもアメリカ2位の長さ (1位は Missouri River の 3767km) だということのだから、アメリカは広いと改めて思い知らされる。

Mississippi 川に架かる橋を渡るとそこはアイオワ側の町、Davenport だ。人口は Moline のおよそ2倍で約

98,000 人で Quad Cities の中で最大の規模になる。橋を渡って川沿いの道をしばらく行くと Davenport のダウンタウンに出る。その川沿いに Casino Boat が見える。例のごとく「川の上のカジノ」だ。寒い中だったが、多くの車が駐車していた。このカジノの同じ敷地に Tourist Information があると表示があったので、簡単なインフォメーションを取ろうと思いい車を寄せた。ところがオープンしているのが月曜日から金曜日で土日はクローズ。結構中西部のツーリストインフォでこの様なことがある。ツーリストが増える休みの日こそ開けるべきなのに残念な話だ。

車に戻りふと空を見ると、巨大な鳥が目の前を飛んでいる。大きな翼、そして特徴的な白い頭に白い尾、「白頭鷲だ!」まさかこんなカジノの前に目的の白頭鷲がいるとは信じられなかった。その鷲の行方を追うと、目の前に建っている建物の上を旋回してその後ろにある木の方へ行った。「あの建物の裏だ!」車に乗り込み建物の裏に行ってみる。すると葉を落とした木の上に黒い大きな影がみえる。間違いなくさっきの白頭鷲である。木までの距離は約50メートル。残念ながら逆光だ。先週降り積もったであろう雪の上を抜き足差し足近寄ってみる。あと20メートルといったところであろうか。私の気配に気づいた鷲は大きな翼を広げて川の北の方へ優雅に飛び去って行った。しかし鷲の行方を見守ると、カジノボートの北側に大きな堰が見える。水が波打っている。ここが餌場だったんだと思い、上空を見ると晴れ上がった大空に大きな翼を広げた鷲が数羽旋回しているではないか。すぐに車に戻り、カジノボートの北側にある駐車場に着くと、そこは轟轟 (ごうごう) と水の流れるミシシッピ川第15閘門だ。足場もよく、すぐ水際まで行ける。

空はキラキラに晴れている。閘門から流れ出る水の轟音の中ふと空を見ると、あそこにも、あそこにもという状態で鷲が旋回している。すると一匹の鷲が突然高度を下げて川面へと降りてきた。まるで飛行機がランディングするような感じだ。そして川面でパシャッという様な水しぶきが見えたかとおもうと、またテイクオフ! どうやら獲物を捕らえたようだ。鷲の目は人間の7倍の距離は見えるといわれ、野球で外野手の位置から捕手が持っている新聞を読める位と言われている。きっと空中からでも、我々が



足元にいるような魚をみる感じで魚の影が見えるのだろう。30分もその場所にいたらだろうか、ほぼ5分おきに鷲の「タッチアンドゴー」を見ることが出来た。

一般には Eagle Watching は朝の方が鳥達の捕食が活発な為、午前中が望ましいといわれるが、なにしろ川が凍らなければならぬのでとにかく寒い。その為防寒対策、とくに足元はしっかりしたい。また警戒心の高い、野生動物が相手なので、どうしても遠い所で見ることになる。双眼鏡は必携である。このカジノボートのある閘門以外にも、川に堰のある場所で水が凍らずに流れている場所であれば、間違いない鷲が上空を旋回している。写真を撮りたい方も多いと思われるが、気温が低いとバッテリーの機能が低下してしまい、一般のデジカメやオートフォーカスカメラが突然使えなくなる時がある。懐でゆっくり温めておき、ここはというときにさっと取り出して撮る方法もあるがやはり限界があるようだ。なにぶん、相手は野生動物であるからかなり距離があるので、本格的な望遠機能も欲しいところである。一般の方はファインダーから覗くのではなく、しっかりと自分の目で鷲の勇士を見ることをお奨めする。

極寒の冬だからといってすっかり家に閉じこもってしまうのはもったいない。中西部では本当に寒い日ほど空が晴れ上がり、飛び込みたくならないような青空を見ることが出来る。キラキラの青空に舞う白頭鷲を見て、身も心もリフレッシュすることも中西部の冬ならではの楽しみである。今度の週末、重くなってしまった腰をちよつと上げて、お子様も楽しめる小旅行はいかがなものだろうか?

